

第2回 2017年5月16日(火)

第2回一流塾では、講師に齋藤ウィリアム浩幸氏（(株)インテカー 代表取締役、内閣府参与）と、牧野明次氏（岩谷産業(株) 代表取締役会長兼 CEO）を、懇親会の特別ゲストには藤沢久美氏（シンクタンク・ソフィアバンク代表をお迎えしました。



【講師 齋藤氏】

第1部では、『グローバルな視点からみた日本企業の課題』と題して齋藤氏が講義を行いました。日系2世として1971年にロサンゼルスで生まれた齋藤氏は、コンピュータのセキュリティなどに使われている生体認証暗号システムの開発に成功したアメリカでも著名なアントレプレナーで、マイクロソフト社に会社を売却して母国・日本に拠点を移し、イノベーションとアントレプレナー育成に取り組んでいます。2011年にはダボス会議を主催する世界経済フォーラムからヤング・グローバル・リーダーに選出されており、講義では、2016年のダボス会議で第4次産業革命がテーマになるほど、グローバルな大きな変化への対応が世界的な関心であることをご紹介頂きました。そのうえで、世界経済の動向を捉える重要な視点、Market（市場）、Mother's Nature（地球環境）、Moore's Law（ムーアの法則）についてお話し頂きました。イノベーションが加速する中、単体ではなく複数のモノを組み合わせてビジネスのプラットフォームを創ることの重要性を、ICTの具体例とともにご説明頂きました。また、インターネットとセキュリティとの深い関係性を踏まえ、日本企業が強みを発揮して、先進的な成功モデルを構築するチャンスがあると塾生を激励されました。塾生からは、「ムーアの法則で将来が予見されているのに対応できていない危機感を強く感じた」、「安全・安心は日本企業の得意分野であり、大いにチャンスがあることは励みになった」、「プラットフォーム構築の本当の価値を再認識できた」といった声があがりました。



【講師 牧野氏】

第2部では、『変革と成長に向けた決断』と題して牧野氏が講義を行いました。講義では、ご自身が労働組合の委員長や子会社社長等を経て、経営トップに就任するまでの様々な困難を、命懸けの決断をしながら乗り越えてこられたご経験をお話し頂きました。命懸けの決断は交渉相手にも必ず伝わるものであり、リーダーはその強い意志を持つことが重要であるとお伝え頂きました。また経営者に求められる資質として、先の見えない状況でも勇気を持って決断し前進すること、そのためには責任とリスクを取ることが必要であるとお話し頂きました。そのうえで、「ヒト」を大切にし、やる気を高めることが経営では最も大切であること、常にプランを持つこと、問題が起こった時に逃げずに正面からぶつかることで運が開けることなど、牧野氏のご経験に裏打ちされた言葉で、塾生を励まされました。塾生からは、「命懸けで決断し取り組むことに凄みを感じ、自分がどれだけできているか考えさせられた」、「変異質を愛する包容力やヒトを大切にすることなど、ご経験から導き出された言葉には志の高さが溢れており、とても感銘を受けた」などの声が寄せられました。

懇親会では、一柳塾長による開会の挨拶ならびに懇親会からご参加頂いた一流塾特別顧問の福川氏（(一財)地球産業文化研究所顧問、東洋大学理事長、元通商産業事務次官）による乾杯の後、特別ゲストの藤沢氏から『第4次産業革命時代のリーダーシップ』と題して卓話を頂きました。世界経済フォーラムから2007年にヤング・グローバル・リーダーに選出された藤沢氏からは、これからのリーダーの役割は物事を決めることであり、また、イノベーションを起こすには社員一人一人の多様な才能を開発すること、そのためにリーダー自身がダイバーシティを高めることが重要であることなどをお話し頂き、塾生も熱心に耳を傾けていました。卓話後には、各テーブルで講師陣と塾生とのオープンな意見交換や議論が続きました。

懇親会后、塾生有志が塾長を囲んで行われた放談会では、袴を脱いだ交流が行われ、リーダーシップ論やダイバーシティの話から、艶のある話しまで多様な話題で大いに盛り上がりしました。



【特別ゲスト 藤沢氏】



【懇親会風景】



【放談会風景】

